

桜特集第2部

希望の花を訪ねて海沿いの街へ

浜通り桜紀行

震災・原発事故から丸5年。大きな被害を受けた浜通りにも、まもなく桜の季節がやってきました。ふるさとへの思い、復興への願いと、未来への希望など、多くの人のさまざまな想いをのせて、美しい花を咲かせる仲間たち。困難を乗り越えて咲き誇る花と人々の笑顔を訪ねて、春色に染まる浜通りを旅してみませんか。

夜の森の桜を訪ねて

県内有数の桜の名所として知られる富岡町の夜の森地区。震災前は毎年桜まつりが開かれ、大勢の人で賑わいました。故郷から離れて暮らす町民の心の拠りどころとなっている桜並木は春がくるたびに今も変わらず美しい花を咲かせています。編集部では昨年、大勢の町民が「ふくしまの花」を連載している写真家の野口勝宏さんに桜並木の撮影を依頼しました。野口さんが見た夜の森の桜をお届けします。

人々が集い賑わった桜並木町は震災で一変してしまった

春の光を浴びて煌々ように枝を広げる桜の並木道や、風情のある夜桜。震災前夜の森の桜には何度も撮影に訪れていました。いつも大勢の人で賑わい、町民の皆さんが桜を自慢に思っている。この桜は本当に地元の方たちに愛されているのだと感じていました。

震災の後、最初にこの地を訪れたのは2011年の5月でした。縁あって、避難所となっていた郡山市の「ビッグパレットふくしま」で撮影をしていた際に富岡町の方と知り合い、一時帰宅に立ち合わせていただきました。桜並木は葉桜になっていました。そして、辺りに人の気配はなく、警察車両だけが止まっている。とても寂しい景色でした。

桜の花の向こうに見えるのは懐かしいふるさと姿

昨年、久しぶりに満開の夜の森の桜を撮影しました。桜は手入れも行き届いた様子で、本当にきれいに咲いていました。でも、ふと周囲に目を向けると、まるで時間が止まったかのように、4年前のままの荒れた町の姿がそこにはありました。現在、桜並木は一部のみ日中の立ち入りが可能になっています。昨年訪れた際にも、ふるさとの桜を懐かしむ町民の姿がありました。きっと満開の桜を見て、楽しかった家族での花見や、穏やかに暮らしていた日々を思い出されていたのではないのでしょうか。ふるさとの花はいつも、その先に家族や先人、仲間など、誰かの姿を思わせてくれます。美しい桜の景色を見て、ふるさとへの思いを少しでも抱いていただけたら、そんな願いを込めてシャッターを切りました。



野口勝宏さん

写真家。猪苗代町生まれ。震災後、「福島の花 Flowers of Fukushima」シリーズを制作。今年5月より就航するANA特別塗装機「東北フラワージェット」の機体を福島や東北の花々でデザイン。本誌で「ふくしまの花」を連載中（P3参照）



1.ソメイヨシノは手入れをしないと樹勢が衰え、花の付きが悪くなってしまいます。並木通りの桜は、幹の下部のコケがきれいに落とされ、根元には肥料が施されるなど、手入れが行き届いていた 2.透明感のある花が、日本人の心の琴線揺らす 3.幹に小さな花をつける桜。力強い生命力を感じずにはいられない



富岡町での桜の名所として知られる夜の森地区。震災前は毎年桜まつりが開かれ、大勢の人で賑わいました。故郷から離れて暮らす町民の心の拠りどころとなっている桜並木は春がくるたびに今も変わらず美しい花を咲かせています。編集部では昨年、大勢の町民が「ふくしまの花」を連載している写真家の野口勝宏さんに桜並木の撮影を依頼しました。野口さんが見た夜の森の桜をお届けします。

※現在、夜の森地区への立ち入りは日中のみ部分的に可能ですが、観客客を受け入れる体制は整っていません。そのため、地図と花見データの掲載は見送らせていただきました。ご了承ください。